

「知りたい！」がいっぱい ～十和田市新聞活用教育事業～

市では、「新聞を教育活動に活用し、読解力や情報活用能力の向上を図り、将来のリーダーとしての社会的資質の基礎を養う」ことを目的に、市内の小・中学校25校に全国紙1紙、地方紙1紙を配布する新聞活用教育事業を行っています。各学校では、新聞コーナーを設けて自由に閲覧できるようにしたり、新聞を読んだ感想を掲示するなど、独自の取り組みが見られます。

今号では、新聞活用教育事業を知っていただくため、特色ある活動を行っている四和小学校と十和田湖中学校の先生に2つの質問をしましたので、ご紹介します。

Q1 新聞をどのように活用していますか。

＜四和小学校＞

朝の会に、各自が選んできた新聞記事を班の友達に紹介しています。朝の2分間という短い時間ですが、短時間だからこそ毎日継続して行うことができていると思います。

帰りの会では、代表の子がクラス全員に自分が選んだ記事について、詳しく説明する活動を行っています。

また、新聞記事の切り抜きをノートに貼り、大切な箇所に線を引いたり、コメントを入れたりすると、子どもたちは、楽しみながら『マイ新聞ノート』づくりに取り組んでいます。

その他にも、子どもたちが自由に新聞を見ることができるよう、新聞コーナーも設置しています。



気に入った記事を代表者が発表

＜十和田湖中学校＞

生徒が自由に読めるように教室に新聞を置いています。新聞の記事の中から生徒が気になる記事を選び、朝の短い学級活動の時間に、日直が「今日の気になるニュース」を発表しています。

国語の授業では、社説を書き写し、難解な語句の意味調べと感想を書いて、友達と意見交換をしています。

社会の授業では、「『今』を読み取る資料」として活用しています。



新聞記事を選んでいます



新聞と教科書を見比べて勉強

Q2 新聞を活用して子どもたちは変わりましたか。

＜四和小学校＞

星座に全く興味がなかった子が友達の発表を聞いて、興味を持つようになるなど、子ども一人一人の興味のある分野が広がりました。

また、以前に比べ、新聞記事だけでなく、文章教材の要点を正確に読み取ることができるようになってきました。

自分が紹介したい記事を選び、伝えたいポイントを読み取り、線を引くということを毎日継続して行ったことが読解力の向上につながっていると思います。

＜十和田湖中学校＞

「生徒の読むことへの抵抗感が減り、読むスピードが速くなった」「世の中の出来事に対する興味・関心が高まった」「表現力や自分の意見を持つ力、別の気付きを得る力が高まった」ことを実感しています。

生徒自身からも自分の考えを持つことができるようになったという声が聞こえています。

❖ 児童・生徒・先生からの一言 ❖

＜四和小学校＞



みやうち ゆうな
宮内 優奈さん（6年）

話題になっている新聞の記事をきれいにまとめてスクラップしているうちに、新聞に興味が出てきて、新聞を読むことが楽しみになりました。



いしくら しょう
石倉 煌くん（6年）

初めは少ししか書けなかった感想ですが、スポーツや生き物などの記事についてもだんだん感想をたくさん書けるようになって良かったです。

＜寺沢 陵子先生＞

インターネットを通して手軽に情報を得られる今だからこそ、新聞（活字）の魅力に気付くのだと思います。子どもたちの新聞スクラップのおかげで、私自身も新聞の良さを感じています。

＜十和田湖中学校＞



おおくぼ ほのか
大久保 萌花さん（3年）

新聞を使って授業をすることで、タイムリーな話題について自分の考えや思いを伝えることができるため、日本人そして世界の中の一人として責任感などが育つと思います。



すぎむら ゆうと
杉村 由斗くん（3年）

新聞を読むと、記事について自分の考えを持つことができ、世界中の出来事が分かります。国語などに必要な力が身に付くので、これからも新聞を読みたいです。

＜鳥山 詠香先生＞

新聞を読むことで、世の中の出来事は、意外と自分たちの生活に身近なところで起きていること、自分たちも周りの人や社会とつながっているということを感じてほしいと思っています。